

令和 5 年 度

養父市決算審査意見書

公営企業会計

養父市監査委員

(注) 1 文中及び各表中の計数は、原則として表示単位未満を四捨五入により端数処理をしているため、合計と内訳の計が一致しない場合があります。

また、各収支状況表において、前年度の実質収支額は「実質収支に関する調書」に基づいているため、当該年度の繰越額等とは一致しない場合があります。

- 2 文中及び表中、「収納率」と表示のあるものは「 $\text{収入済額} \div \text{調定額} \times 100$ 」を、「執行率」と表示のあるものは「 $\text{支出済額} \div \text{予算現額} \times 100$ 」を表しています。
- 3 図及び表中の年度表示は、元号を省略しているところがあります。
- 4 「0.0」・・・・・・該当数値はあるが単位未満（零を含む）のものを表す。
- 5 「-」・・・・・・該当数値のないものを表す。



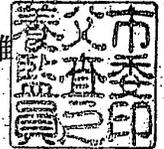
養 監 第 20 号
令和 6 年 8 月 8 日

養父市長 広瀬 栄 様

養父市監査委員 津崎 智 宏



養父市監査委員 田路 之 雄



令和 5 年度公営企業会計決算審査意見書の提出について

地方公営企業法第 30 条第 2 項の規定により、審査に付された令和 5 年度養父市水道事業会計及び令和 5 年度養父市下水道事業会計決算の決算書並びに関係諸帳簿、証拠書類等を審査した結果、次のとおり意見を付する。

第 1 審査の対象

- (1) 令和 5 年度 養父市水道事業会計決算
- (2) 令和 5 年度 養父市下水道事業会計決算

第 2 審査の期間

令和 6 年 6 月 25 日から 7 月 29 日まで

第 3 審査の方法

決算報告書、財務諸表、事業報告書及び附属明細書が法令に準拠して調製されているか、計数は正確であるか、更に事業の経営成績及び財政状況を適正に表示しているか、かつ効率的に執行されたかに主眼をおき審査を実施した。

併せて事業経営内容の実情把握のため、担当部局へ提出資料を求めるとともにヒアリングによる数値分析を行い、事業の動向と推移を検証した。

第 4 審査の結果

公営企業会計の決算審査の結果は、以下のとおりである。

審査に付された会計の決算諸表の記載様式及び記載事項は、法令に従って作成されており、その計数は正確であり、経営状況及び財政状況をおおむね適正に表示している。

目 次

ページ

第1	養父市水道事業会計	1
1	総括	1
2	事業の概要	1
3	決算状況	2
4	貸借対照表	3
5	損益計算書	4
6	繰出金の基準額と実繰出額	5
7	審査意見	5
第2	養父市下水道事業会計	6
1	総括	6
2	事業の概要	6
3	決算状況	6
4	貸借対照表	8
5	損益計算書	9
6	繰出金の基準額と実繰出額	10
7	審査意見	10

第1 養父市水道事業会計

1 総括

令和5年度の水道事業決算額（消費税抜き）は、収益的収入が880,864千円に対し、収益的支出は899,332千円となり18,467千円の純損失となった。その結果、当年度未処分利益剰余金は、前年度繰越利益剰余金122,197千円に純損失を加えた103,730千円となっている。

2 事業の概要

令和5年度の事業概要は次表のとおりである。

区 分		令和5年度	令和4年度	前年度比較
計 画 給 水 人 口 (人)		24,311	24,311	0
給 水 人 口 (人)		21,268	21,751	△483
給 水 戸 数 (戸)		10,452	10,572	△120
配 水 量	年間総配水量 (m ³)	3,017,234	3,091,773	△74,539
	1日最大配水量 (m ³)	11,041	14,238	△3,197
	1日平均配水量 (m ³)	8,244	8,471	△205
有 収 水 量	年間総有収水量 (m ³)	2,405,351	2,459,908	△54,557
	1日平均有収水量 (m ³)	6,572	6,739	△144
	有 収 率 (%)	79.7	79.6	0.1
供 給 単 価 (円/m ³)		203.34	202.63	0.71
給 水 原 価 (円/m ³)		278.23	288.51	△10.28

本年度は、給水人口21,268人、給水戸数10,452戸、年間総配水量3,017,234 m³で、前年度と比べ給水人口で483人(2.2%)減少、給水戸数で120戸(1.1%)減少となり、年間総配水量も74,539 m³(2.4%)減少した。

供給単価は203.34円/m³で対前年度比0.71円(0.4%)増加したが、給水原価は278.23円/m³で対前年度比10.28円(3.6%)減少している。年間総有収水量は2,405,351 m³で前年度に比べ54,557 m³(2.1%)減少し、1日平均有収水量は前年度に比べ144 m³減少し6,572 m³であった。有収率は、前年度に比べて0.1ポイント増加し79.7%となった。

3 決算状況 (税抜き)

(1) 収益的収入及び支出

収益的収入及び支出の状況は、次表のとおりである。

(単位：円、%)

区 分	決 算 額		対前年度	
	令和5年度	令和4年度	増減額	増減率
1 款 水道事業収益	880,864,484	678,853,174	202,011,310	29.8
1 項 営 業 収 益	494,098,440	503,292,884	△9,194,444	△1.8
2 項 営 業 外 収 益	386,766,044	175,560,290	211,205,754	120.3
1 款 水道事業費用	899,331,705	852,849,101	46,482,604	5.5
1 項 営 業 費 用	747,172,874	793,096,672	△45,923,798	△5.8
2 項 営 業 外 費 用	53,373,160	59,091,117	△5,717,957	△9.7
3 項 特 別 損 失	98,785,671	661,312	98,124,359	14,837.8

(収 入)

令和5年度の水道事業収益は880,864千円となり、前年度に比べ202,011千円(29.8%)増加した。水道料金489,097千円など営業収益494,098千円と、一般会計補助金247,378千円など営業外収益386,766千円を収益した。

(支 出)

令和5年度の水道事業費用は899,332千円となり、前年度に比べ46,483千円(5.5%)増加した。職員人件費や施設の維持管理費のほか、減価償却費や企業債償還利息などを支出した。

(2) 資本的収入及び支出 (税抜き)

資本的収入の状況は、次表のとおりである。

(単位：円、%)

区 分	決 算 額		対前年度	
	令和5年度	令和4年度	増減額	増減率
1 款 資本的収入	1,053,373,176	293,036,826	760,336,350	259.5
1 項 企業債	9,300,000	172,900,000	△163,600,000	△94.6
5 項 出資金	1,044,073,176	120,136,826	923,936,350	769.1

資本的収入は、企業債、出資金の合計1,053,373千円を収入し、対前年度比760,336千円(259.5%)増加した。

増加の主な要因は、企業債の繰上償還を行うため、一般会計から出資金1,044,073千円を受けたこと等によるものである。

資本的支出の状況は、次表のとおりである。

(単位：円、%)

区 分	決 算 額		対前年度	
	令和5年度	令和4年度	増減額	増減率
1 款 資本的支出	1,264,873,604	486,316,245	778,557,359	160.1
1 項 建設改良費	14,303,300	160,502,726	△146,199,426	△91.1
2 項 企業債償還金	1,250,570,304	325,813,519	924,756,785	283.8

資本的支出は、建設改良費と企業債償還金の合計1,264,873千円を支出し、対前年比778,557千円の増加となった。

増加の主な要因は、企業債の繰上償還を930,094千円行ったことや、上網場系小佐系統合整備事業等の大型事業が令和4年度で完了したこと等によるものである。

4 貸借対照表 (税抜き)

比較貸借対照表は、次表のとおりである。

(単位：円、%)

区 分	決 算 額		対前年度	
	令和5年度	令和4年度	増減額	増減率
固定資産	8,391,408,703	8,912,260,245	△520,851,542	△5.8
有形固定資産	8,386,840,403	8,907,691,945	△520,851,542	△5.8
無形固定資産	4,568,300	4,568,300	0	0.0
流動資産	1,910,876,856	1,705,102,285	205,774,571	12.1
現金預金	1,806,272,515	1,609,699,260	196,573,255	12.2
未収金	97,552,447	90,175,806	7,376,641	8.2
貯蔵品	7,051,894	5,227,219	1,824,675	34.9
資産合計	10,302,285,559	10,617,362,530	△315,076,971	△3.0
固定負債	2,456,672,716	3,648,044,141	△1,191,371,425	△32.7
企業債	2,456,672,716	3,648,044,141	△1,191,371,425	△32.7
流動負債	344,841,972	362,955,707	△18,113,735	△5.0
企業債	270,544,427	320,443,306	△49,898,879	△15.6
未払金	69,917,065	38,135,726	31,781,339	83.3
預り金	1,480	3,360	△1,880	△56.0
引当金	4,379,000	4,373,315	5,685	0.1
繰延収益	1,894,767,815	2,025,965,581	△131,197,766	△6.5
長期前受金	3,816,590,689	3,816,590,689	0	0
収益化累計額	△1,921,822,874	△1,790,625,108	△131,197,766	△7.3
負債合計	4,696,282,503	6,036,965,429	△1,340,682,926	△22.2
資本金	5,271,136,730	4,227,063,554	1,044,073,176	24.7
自己資本金	5,271,136,730	4,227,063,554	1,044,073,176	24.7
剰余金	334,866,326	353,333,547	△18,467,221	△5.2
資本剰余金	11,306,554	11,306,554	0	0

利益剰余金	323,559,772	342,026,993	△18,467,221	△5.4
資本合計	5,606,003,056	4,580,397,101	1,025,605,955	22.4
負債・資本合計	10,302,285,559	10,617,362,530	△315,076,971	△3.0

5 損益計算書（税抜き）

比較損益計算書は、次表のとおりである。

（単位：円、％）

区 分	決 算 額		対前年度	
	令和5年度	令和4年度	増減額	増減率
営業収益	494,098,440	503,292,884	△9,194,444	△1.8
給水収益	489,097,337	498,051,050	△8,953,713	△1.8
その他の営業収益	5,001,103	5,241,834	△240,731	△4.6
営業費用	747,172,874	793,096,672	△45,923,798	△5.8
原水及び浄水費	113,823,525	118,136,328	△4,312,803	△3.7
配水及び給水費	54,789,321	59,432,349	△4,643,028	△7.8
総 係 費	44,596,526	45,244,637	△648,111	△1.4
減価償却費	533,854,542	566,777,974	△32,923,432	△5.8
資産減耗費	—	3,282,924	△3,282,924	皆減
その他営業費用	108,960	222,460	△113,500	△51.0
営業損失	253,074,434	289,803,788	△36,729,354	△12.7
営業外収益	386,766,044	175,560,290	211,205,754	120.3
受取利息	1,158	2,323	△1,165	△50.2
加 入 金	3,363,634	4,236,360	△872,726	△20.6
補助金	247,377,585	23,674,421	223,703,164	944.9
長期前受金戻入	131,197,766	142,818,519	△11,620,753	△8.1
雑 収 益	4,825,901	4,828,667	△2,766	△0.1
営業外費用	53,373,160	59,091,117	△5,717,957	△9.7
支 払 利 息	43,720,273	57,909,905	△14,189,632	△24.5
雑 支 出	9,652,887	1,181,212	8,471,675	717.2
経常利益（損失）	80,318,450	△173,334,615	△253,653,065	△146.3
特別利益（損失）	98,785,671	661,312	98,124,359	14,837.8
過年度損益修正損	209,557	661,312	△451,755	△68.3
その他 特別損失	98,576,114	—	98,576,114	皆増
当年度純損失	△18,467,221	△173,995,927	155,528,706	89.4
前年度繰越利益剰余金	122,197,479	296,193,406	△173,995,927	△58.7
当年度未処分利益剰余金	103,730,258	122,197,479	△18,467,221	△15.1

当年度純損失は△18,467千円で、前年度繰越利益剰余金122,197千円に純損失を加えた当年度未処分利益剰余金は、103,730千円となっている。

6 繰出金の基準額と実繰出額

(単位：円)

年 度	繰出基準額	実繰出額	差 額
令和 5 年度	266,590,147	1,295,259,761	1,028,669,614
令和 4 年度	147,620,247	147,620,247	0
比 較	118,969,900	1,147,639,514	1,028,669,614

*令和5年度は、企業債の繰上償還を行うため、基準外の繰出金（1,028,669,614円）があった。

7 審査意見

(1) 事業の状況について

令和5年度末の給水人口は21,268人で対前年度比483人減（△2.2%）、給水戸数は10,452戸で対前年度比120戸減とそれぞれ減少している。

年間総配水量は3,017,234 m³で対前年度比74,539 m³（2.4%）の減少、年間有収水量は2,405,351 m³で対前年度比54,557 m³（2.2%）の減少となり、有収率は79.7%で前年度79.6%と比較し0.1ポイント増加した。

また、給水人口、給水戸数とも昨年度に比べ減少しているが、これは、少子化による自然減と転出による社会減が大きな要因であり、今後も減少傾向が続くと考えられる。

建設改良事業の状況は、若杉浄水場濁度計設置工事・九鹿加圧ポンプ所制御盤更新工事などを施工した。

(2) 損益の状況について

令和5年度の収益的収入は、総額880,864千円で前年度678,853千円と比較して202,011千円の増収となった。営業収益は、494,098千円で前年度503,293千円と比較して9,194千円の減収となった。営業外収益は令和4年度に皆減となった高料金対策分の補助金が回復したことや、繰上償還の補償金に伴う基準外の一般会計補助金を繰り入れたため386,766千円となり、前年度175,560千円と比較して211,206千円の増収となった。

収益的支出は、総額899,332千円で前年度852,849千円と比較して46,483千円の増額となった。この結果、本年度は18,467千円の純損失が生じ、当年度末処分利益剰余金は、前年度繰越利益剰余金122,197千円から純損失を差し引いた103,730千円となった。

なお、公営企業会計における貸倒引当金の処理方法について、「公営企業の経理の手引き」によると、貸倒損失額が繰入れた貸倒引当金を超える場合は、損益計算書の過年度貸倒損失の勘定科目で特別損失として処理する旨規定されているが、当該損失分を当年度の「貸倒損失」として費用処理している。今後においては、市の顧問会計士に相談するなどして適正に処理されたい。

また、近年、水道料金の収入未済件数・金額が増加傾向にあり、令和5年度においては60件2,357千円を不能欠損処理している。

今後、給水人口の減少、施設の老朽化、水道管等の耐震適合化の遅れ等、水道事業を取り巻く経営環境は厳しさを増しているため、滞納者に対する督促体制を強化し、収入未済件数・金額の削減に努められたい。

第2 養父市下水道事業会計

1 総括

令和5年度の下水道事業決算額（消費税抜き）は、事業収益 1,095,144 千円に対し、事業費用は 1,104,525 千円となった。その結果、9,381 千円の純損失が生じ、当年度未処理欠損金は 160,105 千円となった。

2 事業の概要

令和5年度の事業概要は次表のとおりである。

区 分	令和5年度	令和4年度	前年度比較
年度末行政区域内人口（人）	20,362	20,804	△422
年度末処理区域内人口（人）	20,362	20,804	△422
年度末接続人口（人）	19,803	20,199	△396
年度末接続世帯数（世帯）	8,339	8,405	△66
年度末接続率（%）	97.3	97.1	0.2
年間総処理水量（m ³ ）	2,149,376	2,210,737	△61,361
年間有収水量（m ³ ）	2,112,058	2,165,138	△53,080
有 収 率（%）	98.3	97.9	0.4

当年度末の接続人口は 19,803 人、接続率は 97.3%であった。当年度の年間総処理水量は 2,149,376 m³で、これに対する年間有収水量は 2,112,058 m³となり、有収率は 98.3%となった。

3 決算状況（税抜き）

（1）収益的収入及び支出

収益的収入及び支出の状況は、次表のとおりである。

（単位：円、%）

区 分	決 算 額		対前年度	
	令和5年度	令和4年度	増減額	増減率
1 款 下水道事業収益	1,095,143,628	1,097,138,204	△1,994,576	△0.2
1 項 営 業 収 益	433,341,633	441,385,728	△8,044,095	△1.8
2 項 営 業 外 収 益	661,801,995	655,711,043	6,090,952	0.9
1 款 下水道事業費用	1,104,525,080	1,108,314,496	△3,789,416	△0.3
1 項 営 業 費 用	1,006,265,746	996,808,066	9,457,680	0.9
2 項 営 業 外 費 用	97,108,977	109,802,822	△12,693,845	△11.6
3 項 特 別 損 失	1,150,357	1,703,608	△553,251	△32.5

（収 入）

令和5年度の下水道事業収益は 1,095,144 千円で、下水道使用料 433,119 千円など営業収益 433,342 千円と、一般会計からの補助金 354,644 千円など営業外収益 661,802 千円を収入した。

(支 出)

令和5年度の下水道事業費用は1,104,525千円で、職員人件費や施設の維持管理費のほか、減価償却費や企業債償還利息などを支出した。

(2) 資本的収入及び支出(税抜き)

資本的収入の状況は、次表のとおりである。

(単位:円、%)

区 分	決 算 額		対前年度	
	令和5年度	令和4年度	増減額	増減率
1 款 資本的収入	781,812,746	744,419,535	37,393,211	5.0
1 項 企 業 債	546,300,000	530,100,000	16,200,000	3.1
2 項 出 資 金	126,530,071	125,522,615	1,007,456	0.8
3 項 補 助 金	107,072,050	77,089,300	29,982,750	38.9
4 項 負 担 金	1,910,625	11,707,620	△9,796,995	△83.7

資本的収入は、建設改良費等の財源に充てるための企業債、一般会計からの出資金、国県からの補助金及び工事負担金の合計781,813千円を収入し、対前年度比37,393千円(5.0%)増加した。

資本的支出の状況は、次表のとおりである。

(単位:円、%)

区 分	決 算 額		対前年度	
	令和5年度	令和4年度	増減額	増減率
1 款 資本的支出	1,083,696,833	1,061,006,471	22,690,362	2.1
1 項 建設改良費	214,481,537	166,032,188	48,449,349	29.2
2 項 企業債償還金	869,215,296	894,974,283	△25,758,987	△2.9

資本的支出は、建設改良費及び企業債の償還に合計1,083,697千円を支出し、対前年比22,690千円(2.1%)の増加となった。

増加の主な要因は、建設改良費の増加によるものである。

4 貸借対照表 (税抜き)

比較貸借対照表は、次表のとおりである。

(単位：円、%)

区 分	決 算 額		対前年度	
	令和5年度	令和4年度	増減額	増減率
固定資産	19,581,981,854	20,097,964,113	△515,982,259	△2.6
有形固定資産	19,581,405,854	20,097,388,113	△515,982,259	△2.6
無形固定資産	576,000	576,000	0	0.0
流動資産	686,623,798	480,407,854	206,215,944	42.9
現金預金	553,395,196	377,963,853	175,431,343	46.4
未収金	133,228,602	102,444,001	30,784,601	30.1
資産合計	20,268,605,652	20,578,371,967	△309,766,315	△1.5
固定負債	5,041,820,674	5,353,329,800	△311,509,126	△5.8
企業債	5,041,820,674	5,353,329,800	△311,509,126	△5.8
流動負債	1,083,140,613	1,003,132,604	80,008,009	8.0
企業債	857,801,476	869,207,646	△11,406,170	△1.3
未払金	220,100,748	129,015,776	91,084,972	70.6
預り金	3,720	1,840	1,880	102.2
引当金	5,234,669	4,907,342	327,327	6.7
繰延収益	7,639,544,901	7,834,958,718	△195,413,817	△2.5
長期前受金	10,117,110,249	10,028,239,886	88,870,363	0.9
収益化累計額	△2,477,565,348	△2,193,281,168	△284,284,180	13.0
負債合計	13,764,506,188	14,191,421,122	△426,914,934	△3.0
資本金	6,243,728,935	6,117,198,864	126,530,071	2.1
固有資本金	4,948,955,464	4,948,955,464	0	0
繰入資本金	1,294,773,471	1,168,243,400	126,530,071	10.8
剰余金	260,370,529	269,751,981	△9,381,452	△3.5
資本剰余金	420,475,357	420,475,357	0	0
利益剰余金	△160,104,828	△150,723,376	△9,381,452	6.2
資本合計	6,504,099,464	6,386,950,845	117,148,619	1.8
負債・資本合計	20,268,605,652	20,578,371,967	△309,766,315	△1.5

5 損益計算書 (税抜き)

比較損益計算書は、次表のとおりである。

(単位：円、%)

区 分	決 算 額		対前年度	
	令和5年度	令和4年度	増減額	増減率
営業収益	433,341,633	441,385,728	△8,044,095	△1.8
使用料	433,118,616	441,202,001	△8,083,385	△1.8
その他の営業収益	223,017	183,727	39,290	21.4
営業費用	1,006,265,746	996,808,066	9,457,680	1.0
管 渠 費	43,905,976	42,679,735	1,226,241	2.9
処 理 場 費	214,868,496	221,303,291	△6,434,795	△2.9
総 係 費	35,747,451	31,053,010	4,694,441	15.1
減 価 償 却 費	701,539,023	701,772,030	△233,007	△0.0
資 産 減 耗 費	10,204,800	0	10,204,800	皆増
営業損益	△572,924,113	△555,422,338	△17,501,775	3.1
営業外収益	661,801,995	655,711,043	6,090,952	0.9
負 担 金	6,363,616	8,863,615	△2,499,999	△28.2
補 助 金	360,944,345	362,850,946	△1,906,601	△0.5
長期前受金戻入	294,488,980	283,953,370	10,535,610	3.7
雑 収 益	5,054	43,112	△38,058	△88.3
営業外費用	97,108,977	109,802,822	△12,693,845	△11.6
支 払 利 息	94,596,049	109,005,991	△14,409,942	△13.2
雑 支 出	2,512,928	796,831	1,716,097	215.4
経常利益(損失)	△8,231,095	△9,514,117	1,283,022	△13.5
特別利益	0	41,433	△41,433	皆減
固定資産売却益	0	41,433	△41,433	皆減
特別損失	1,150,357	1,703,608	△553,251	△32.5
過年度損益修正損	1,150,357	1,703,608	△553,251	△32.5
当年度純利益(損失)	△9,381,452	△11,176,292	1,794,840	△16.1
前年度繰越欠損金	150,723,376	139,547,084	11,176,292	8.0
当年度未処理欠損金	160,104,828	150,723,376	9,381,452	6.2

当年度純損失は9,381千円で、前年度繰越欠損金150,723千円を加算した当年度未処理欠損金は160,105千円となっている。

6 繰出金の基準額と実繰出額

(単位：円)

年 度	繰出基準額	実繰出額	差 額
令和 5 年度	481,174,416	481,174,416	0
令和 4 年度	479,623,561	479,623,561	0
比 較	1,550,855	1,550,855	0

7 審査意見

(1) 事業の状況について

令和5年度末の接続人口は19,803人、接続率は97.3%で対前年度比0.2ポイント増加した。

年間総処理水量は2,149,376 m³でこれに対する年間有収水量は2,112,058 m³となり、有収率は98.3%で前年度対比は0.4ポイント増加した。

建設改良では、長寿命化対策事業として、八鹿浄化センター長寿命化対策工事、養父3地区・4地区機能強化対策工事（繰越事業）、養父3地区・4地区機能強化対策工事（現年事業）、その他の工事として十二所歩道整備関連下水道管布設工事を実施した。

(2) 損益の状況について

令和5年度の収益的収入は、総額1,095,144千円で前年度1,097,138千円と比較して1,995千円の減収となった。営業収益は433,342千円で、前年度441,386千円と比較して8,044千円の減収となった。

営業外収益は、一般会計補助金や長期前受金の減額等により661,802千円で前年度655,711千円と比較して6,091千円の増収となった。

収益的支出は、減価償却費の減額等により総額1,104,525千円で前年度1,108,314千円と比較して3,789千円の減額となった。

この結果、本年度は9,381千円の純損失が生じ、当年度末処理欠損金は前年度繰越欠損金150,723千円に純損失を加えた160,105千円となった。

なお、公営企業会計における貸倒引当金の処理方法について、「公営企業の経理の手引き」によると、貸倒損失額が繰入れた貸倒引当金を超える場合は、損益計算書の過年度貸倒損失の勘定科目で特別損失として処理する旨規定されているが、当該損失分を当年度の「貸倒損失」として費用処理している。今後においては、市の顧問会計士に相談するなどして適正に処理されたい。

また、近年、下水道料金の収入未済件数・金額が増加傾向にあり、令和5年度においては33件1,247千円を不能欠損処理している。

今後、人口の減少、施設の老朽化、下水道管等の耐震適合化の遅れ等、下水道事業を取り巻く経営環境は厳しさを増しているため、滞納者に対する督促体制を強化し、収入未済件数・金額の削減に努められたい。